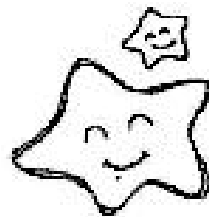


QSK にぬふあぶし

No.313

ね
子の方向の星(北極星)



さくらも満開、お花見の季節

2月最初の土曜日、『てるしの』(南風原町)では利用者のみなさんと一緒にお花見に出かけてきました。

1年を通してそれほど大きくは変わることのない沖縄の街の風景ですが、この桜の季節だけはやっぱり特別な装いを感じさせます。ふだん通る道もところどころが明るく色づいて気がつけば目をひきつけられるし、よく咲いていていい木を見つければ、ついまわりの人にも教えてあげたくなります。

日本の人の情緒を伝える、「^{せつげっか}雪月花」という言葉があります。雪は沖縄にはありませんが、月と花は、私たちの暮らしや心と、やっぱりとても結びついているようです。(増山)



沖縄リモート家族学習会に参加して

2023-2-18 半澤真澄

みんなねっと企画委員会で、沖縄県が単独でリモート版『家族による家族学習会』を開催すると伺い、内心「だいじょうぶかな・・・」と正直他人ごとにて捉えていました。

後日、リーダーの島袋さんよりアドバイザーコールをいただいた際は、「自分がアドバイザーとしての役割を務められるだろうか・・・」研修を受けて半年足らずのうちに、全うできるだろうかと責任の重みを感じ始めていたところでした。

担当者4人と初顔合わせをすると、不思議とその不安が払拭しました。

わたしはこれまでに沖縄旅行を3度、八重山列島巡りを1度経験しています。

千葉から1900km離れていても、ここは画面を超えて沖縄にありました。

島袋さん、仲本さん、瀬良垣さんの話し言葉、独特のイントネーションは懐かしくほっと癒されます。神奈川県から沖縄に移住されてきた谷川さんは同じ関東出身者ですが、話し言葉は標準語でも、かりゆしウェアを着こなすなど、沖縄の地にすっかり溶け込んでおられました。

当初登録された参加者は6名でしたが、様々な事情で1人欠け2人欠け、3~4人の参加者での開催となりました。わたしは、1・3・5回目の学習会に参加。参加と言ってもアドバイザーですから、学習会の様子を見守ることがほとんどです。残念ながら全回出席できた方はいませんでした。参加者集めに一苦勞されたと同っていましたので、全回参加できるような工夫の課題がありそうです。しかし、参加者の皆さんの発言を伺うと深刻な家族の悩みを抱えながらも、何とかしたいという強い想いが伝わりました。

リモート学習会で学んだ何かしらがいつか役立つ時がくると信じています。

沖縄家族会の皆さんの、開放的で緩やかな風土の特色を活かせる家族学習会の運営を期待申し上げます。若い人が多い沖縄ならではの、多くの知恵や工夫を結集し、のびのびと明るくいきましょう。



ダニウス・プラス来沖シンポジウム参加報告 〈前編〉

くろいわ みはえ
黒岩 海映(弁護士)

1月20日 私宅監置小屋見学

精神病患者監護法に基づいて、戦前の日本では各家庭で精神障害者を閉じ込める私宅監置(座敷牢)が合法だった。1950年に廃止されたこの法律が、沖縄では、1972年の返還まで続いた。現在も残っている唯一の私宅監置小屋の遺構を見学してきた。



この小屋に入れられた人は1950年前後、20歳頃から13年間入っていたとのこと。盆や正月には出してもらっていたという。外から鍵がかかる小屋だが、扉も鍵もほとんど朽ちていた。精神科病院ができたから小屋から出されて病院に入れられたようだ。すぐ隣に家族が住んでいた民家があり、その後この小屋は家族の風呂場として使われた。夏の暑さや冬に冷え込んだ時の寒さにどうやって耐えながらこのような小屋の中に13年間いたのか、全く想像を超えている。

精神科病院が整備されるまでの代替策として沖縄で戦後も続けられた私宅監置。国の政策として、精神疾患の人をつかまえて、家族が家族を閉じ込めることを強いた。小屋の設計図面も交付され、しかし家族の費用負担で作られたという。

そして今も精神科病院では閉じ込めたり縛ったりして民間人が人の自由を奪っているという事実は変わっていない。

遺族には様々な考えがあり、この小屋の所在地は公表されていない。遺族の意向次第でいつでも取り壊されてしまうかもしれない状況だが、何とか公的に保存できないか検討が始まっている。

(次のページへ)



(前のページから)

精神科病院での講演会

ダニウスさんから、ロボットミーその他、精神医療がかつて犯したたくさんの過ちの歴史や、生物医学還元主義の不合理さがわかりやすく語られた。

またダニウスさんが会場の病院職員の質問(患者さんの命を守るために強制入院を選択せざるを得ない葛藤)に答えて、暴力も自殺も、薬や治療では止められないと言い切っておられたのがとても明快だった。暴力も自殺も、孤独や人間関係などの社会関係の中に原因があり、薬を飲めばなくなるというものではない。また精神疾患と暴力(加害)を関連付けることが多いが、精神障害の人々は、暴力の加害者より被害者になっていることの方がずっと多いというお話も全くその通りだと思った。犯罪発生率を持ち出して比較するまでもなく。

強制に代わる代替的な治療法ないし関わり方について、世界中をリサーチなさせて、またWHOの報告書も引用されて、本当に世界中にさまざまな非強制の実践があることに勇気づけられた。その一つ一つについてもっとお聞きしたかった。

池原毅和弁護士(精神障害法の第一人者)のお話で、強制というものは、その権限を持つ医師が一番偉く、患者との力関係を形作るのみならず、他の病院職員との間でもピラミッドのヒエラルキーを作ってしまうという指摘は、多数の病院職員を前にあえてなされたものであり、職員さん達の心に刺さったようだった。

この精神科病院では、身体拘束をなくす取組をしたら、1年間で95%減らせたという。職員の皆さんが誇りをもって働いている空気感が伝わってきた。講演後の質疑も活発になされた。

《夜は沖縄民謡ライブが聴ける料理屋で乾杯!》



次回、〈後編〉もお楽しみに

岡野てんちようからの手紙

元沖福連職員の岡野真由美さんから
旅の思い出をおすそわけ

12月に北海道を旅して、安積遊歩^{あさかゆうほ}さんを訪ねました。遊歩さんは生まれつき骨が弱く、骨折しやすい特徴があって、重度訪問介護と札幌市独自のPA(パーソナルアシスタント)制度を利用して生活しています。

わたしは札幌のシェアハウスに寄せていただき、遊歩さんと介助の女性たちと一緒に話したり美味しいビーガン料理をいただいたりして過ごしたのですが、とにかく楽しかったです。

ひとりひとりの個性がおもしろくて、自由とわかち合いの思いを大切にしている関係性にあたたかさを感じ、めっちゃくちゃイイ時間を過ごしました。

難しさはあるけど、こんな風に関係性を考えながら仕事ができたら(仕事でなくても)いいな。仕事を辞めてどこにも居場所がないような不安な感じも、出会う人たちと支え合いながら気ままなひとり旅と考えると、なかなかいいものかもしれない。また旅に出ようと想ってます。

ちなみに、12月中旬の札幌はかなりの積雪で、道路の端がわからないくらいの雪景色と雪かきにはしゃぎまくりのわたしに、介助の20代の女性が「見てるだけではっぴい」と言ってくれました(笑)。ではまた!

2月18日 岡野真由美

○ 札幌独自のPA制度。市が介助費用を直接支給し、利用者がライフスタイルに合わせて介助者と直接契約を結んで自らマネジメントしていく制度です。

○ 遊歩さんの本『このからだは平和をつくる ケアから始まる変革』が昨年12月に出ています。同じ障がいを受け継ぐ娘の安積宇宙^{あさかうみ}さんの車いす留学記『宇宙のニュージーランド日記 なつかしい未来の国から』は1月に出版されました。どちらも大切にしたいなと思うことが書かれていました。



(左) 札幌市アイヌ文化交流センターサッポロピリカコタン。隣には温泉まつ湯、いいお湯でした～
(右) ぐっときた歯医者さんの看板。なるべくにこにこ生きていきたい、多様な命とともに

今年も、ルンルンはえばるフェスタ!

2月4日・5日の2日間、南風原町商工会主催の「ルンルンはえばるフェスタ」がイオン南風原ショッピングセンターにて開催されました。

毎年恒例となった南風原のジョートムン(良いもの)が一堂に会するこのショップイベントに福祉事業所として声がかかるのは大変嬉しく、つつい張り切る出店担当者 A。

南風原のご当地ニューヒーロー「ヒュート」にメロメロ…いえいえ、しっかり横の繋がりを作ってまいりました!

さて、今回も定番のてるしのパン工房のパン、南部地域ではなかなか見かけないEM石けん、走り出して3年目に入る手染め紅型クラフトを店頭に並べたのですが、やはりパンは強いです! 同じ場所で長い時間をかけて地域に知ってもらうことの大切さを実感しました。パンをきっかけに立ち止まったお客様に「てるしのって、いろんなことやってるのねー!」とEM石けんや、紅型クラフトも目に留めていただきました。多くの方の口から自然に「ああ! てるしのね!？」と聴くことができるルンルンはえばるフェスタ、私たちはもう来年の開催を楽しみにしています。



◎編集後記◎

家では『ディアブロ2』という20年以上前のゲームのリマスターを来る日も来る日も遊んでいて家族に呆られています。ナンバリングが前後するのですが、その前は10年前に発売された『ディアブロ3』も遊んでいて、やっぱり日々飽きることなくコントローラを握っていたのでした。それで実は今年、全世界待望の『ディアブロ4』が発売予定です! 私が職場に現れなくなってもそういう事情ですので、どうぞなにもご心配なさらないでください。(増山)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長 山田 圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1
てるしのワークセンター内
電話 098-889-4011 FAX098-888-5655
E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp
発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0068
福岡市東区社領 1 丁目 12 番 4 号
電話 092-753-9722 FAX092-753-9723
定価：10 円 (会費に含まれる)